

学校法人 目白学園
第4次中期目標・中期計画
(2019年度～2023年度)

2019年4月

目次

第1部 学校法人目白学園の管理運営	P 1
1 学園運営基盤の充実	P 1
(1) ガバナンス機能の強化を図る	
(2) 教職員の人事給与制度全般の見直しを行う	
(3) 業務効率化を推進する	
(4) 財務基盤を強化する	
(5) 施設・設備の計画的な整備、キャンパス環境の充実を図る	
(6) 100周年記念事業を完遂する	
第2部 目白大学	P 2
1 教育	P 2
(1) 学位授与方針及び教育課程編成・実施方針に基づき、幅広い教養と確かな専門性を身に付けさせる教育を実践する	
(2) 学生の主体性及び学習意欲を向上させるため、学修成果の可視化や学習環境の基盤整備等の施策を展開する	
(3) 質の高い教育を実現するため、入学前教育の充実、授業改善活動の活性化、学修支援体制の強化を行う	
(4) 学生の多様なニーズに対応し、学生生活が充実したものとなるよう、課外活動、社会的活動、就職活動など学生への手厚い支援を実施する	
(5) 入学者受け入れ方針に定めた資質・能力を有する学生を受け入れるため、学力・意欲・適性等の点から入学者を総合的に評価する入学者選抜を実施する	
(6) 本学の個性・特徴を学生募集活動に生かすため、教育・研究成果等の広報活動を強化する	
2 研究	P 1 2
(1) 研究水準の向上を図るため、研究支援体制を強化するとともに研究費配分の仕組みを整備する	
(2) 外部資金等獲得支援体制の整備及び積極的かつ柔軟な研究活動を	

可能にする条件整備を行う	
(3) 研究成果の社会及び教育への還元を推進する	
3 管理運営	P 1 5
(1) 会議・委員会等校務の実質化と効率化を図る	
(2) 透明性の高い人事評価制度を実現する	
(3) 自己点検評価の実質化を図る	
第3部 目白大学短期大学部	P 1 8
1 教育	P 1 8
(1) 学位授与方針及び教育課程編成・実施方針に基づき、幅広い教養と確かな専門性を身に付けさせる教育を実践する	
(2) 学生の主体性及び学習意欲を向上させるため、学修成果の可視化や学習環境の基盤整備等の施策を展開する	
(3) 質の高い教育を実現するため、入学前教育の充実、授業改善活動の活性化、学修支援体制の強化を行う	
(4) 学生の多様なニーズに対応し、学生生活が充実したものとなるよう、課外活動、社会的活動、就職活動など学生への手厚い支援を実施する	
(5) 入学者受け入れ方針に定めた資質・能力を有する学生を受け入れるため、学力・意欲・適性等の点から入学者を総合的に評価する入学者選抜を実施する	
(6) 本学の個性・特徴を学生募集活動に生かすため、教育・研究成果等の広報活動を強化する	
2 研究	P 2 1
(1) 研究水準の向上を図るため、研究支援体制を強化するとともに研究費配分の仕組みを整備する	
(2) 外部資金等獲得支援体制の整備及び積極的かつ柔軟な研究活動を可能にする条件整備を行う	
(3) 研究成果の社会への還元及び教育への還元を推進する	

目 次

3	管理運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 2 2
	(1) 会議・委員会等校務の実質化と効率化を図る	
	(2) 透明性の高い人事評価制度を実現する	
	(3) 自己点検評価の実質化を図る	
付	記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 2 3

第1部 学校法人目白学園の管理運営

1 学園運営基盤の充実

中期目標
1. 学園運営基盤の充実

部署	中期計画	2019年度の計画
総務部	(1) ガバナンス機能の強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ガバナンス・コード策定に向けて議論を進める。
総務部	(2) 教職員の人事給与制度全般の見直しを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年度ライフプランの実施に向け、学園規範の整備等の準備を進める。 ・人事評価制度を点検し、見直しを行う。 ・新たな人材育成制度の構築に着手する。
総務部 財務部	(3) 業務効率化を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の棚卸しを実施し、業務の見直し及びマニュアル化を行う。 ・帳票等のペーパーレス化、電子化を行う。 ・学納金システム、経費精算システムの導入を検討する。
財務部	(4) 財務基盤を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・経常費補助金及び会計処理に関する職員研修を実施する。 ・業務・行事等の精選、縮小により支出の見直しを図る。 ・リスクリターンのバランスのとれた資産運用の継続と新たな財源を確保する。
財務部	(5) 施設・設備の計画的な整備、キャンパス環境の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期の修繕計画を策定し、とりわけ予防保全による安全確保やコストの低減、支出の平準化を図る。 ・計画通り、新8号館を完成させ、スムーズに竣工させる。 ・省エネルギー対策を推進する。 ・規格の古いLANケーブルを更新し、情報処理能力の向上を図る。 ・Wi-Fi整備によるICT基盤構築の促進及び教育力の向上をサポートする。 ・証明書発行機のリプレースを検討する。
総務部 財務部	(6) 100周年記念事業を完遂する。	<ul style="list-style-type: none"> ・100周年記念募金活動を開始する。目標募金額を達成するための方策を検討・立案する。 ・100周年記念サイトを充実させる。記念募金及び記念事業ページを追加し、広報及び募金活動の強化を図る。 ・広報専門委員会の学内外への広報活動を推進し、また記念誌編集委員会の資料を整備し、編纂構成の検討を進める。

第2部 目白大学

1 教育

全学的な中期目標
1. 学位授与方針及び教育課程編成・実施方針に基づき、幅広い教養と確かな専門性を身に付けさせる教育を実践する。

全学的な中期計画	2019年度計画
(1) 教育課程についてのアセスメント・ポリシーを策定し、学修成果を検証するための具体的取り組みを行う。	(1) 教養教育についての学修成果アセスメントを実施するとともに、専門教育についての学修成果のアセスメント方針を策定する。
(2) 履修系統図・ナンバリング・履修モデル等を利用したカリキュラムの体系化を図るとともに、学生のカリキュラム理解を促進する施策を展開する。	(2) 全科目について科目ナンバリングを行い、シラバスに記載する。
(3) 問題発見・解決能力を養成するため、能動的学修を行う授業を増やす。	(3) 能動的学習の実施率を調査し、人材養成目的及び教育課程編成方針に基づく適切な実施率を策定する。ゼミ・演習実習科目の在り方について検討を行い今後の方針を策定する。
(4) 授業時間外の学修を増やすための諸施策を検討し、実行する。	(4) 学生アンケートや授業評価アンケートを通して授業時間外学修の実態を調査した上で、適切な時間外学修時間について目標値を定める。

学部	学部中期計画	2019年度の計画
人間	<ul style="list-style-type: none"> ・学修成果として安定した免許・資格の取得率を目指す。 ・授業時間外学修を増やすような方策を検討実施する。 ・IRを活用し教育内容を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・免許・資格の合格目標を設定し、そのための教育に取り組む。 ・時間外学修の実態を把握し、方策を策定する。 ・学科別に新入生の特徴を把握し対応策を立てる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程についてのアセスメント・ポリシーを策定し、学修成果を検証するためのPDCAサイクルを構築する。 ・問題発見・解決能力を育成するために、課題解決型学習（PBL）を積極的に導入する。 ・履修系統図・ナンバリング・履修モデル等を利用し、カリキュラム（専門教育科目）の体系化と理解促進を図る。 ・学部共通科目の位置付けを見直し、社会学部及び社会情報学科・地域社会学科に相応しい内容のものにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「専門基礎力」に関する学生の学修成果を客観的に評価・検証するための方針及び方法を策定する作業に着手する。 ・課題解決型学習（PBL）の取組支援の一環として、社会学部「アッハ！体験」プロジェクトの実施を継続し、企画内容の質的向上を目指す。 ・2020年度新入生のカリキュラム・ガイダンスでの活用に向けて、履修系統図・ナンバリング・履修モデルをセットで策定する作業にとりかかる。 ・2021年度から新しい枠組みと内容の学部共通科目に移行できるよう作業を進める。2019年度は学部共通科目の位置付けについて明確化する。
メディア	<ul style="list-style-type: none"> ・履修系統図・履修モデル等を利用したカリキュラムの体系化を図るとともに、学生のカリキュラム理解を促進する施策を展開する。 ・メディアについて幅広く、また専門性の高い教育を促進する。 ・メディアの社会的役割に関心を持ち、社会に貢献できる人材の教育と育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生にカリキュラムについて学習する時間を設けて、カリキュラムツリー、履修モデルについて解説する。 ・設置審査での指摘事項に対して十分な配慮を行い、カリキュラムの充実を目指し、授業内容等の質の改善を図る。 ・学部基幹科目などの授業を通してメディアや社会について専門的知識を学習する環境を整備する。 ・2年次から「メディア基礎演習A・B」という社会連携プログラムが始まり、メディアの社会的な活用やその役割について理解を促す。
経営	<ul style="list-style-type: none"> ・経営学部・経営学科所属の学生としての職業意識を明確にさせる。 ・学修成果として社会に通用する専門性を身に付けさせる。 ・IRを活用し教育内容を充実させる。 ・目標とする職業に関連する問題発見能力、問題解決能力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本・世界の働くことを取り巻く環境等に関する視野を持たせるため、教育内容を充実させる。 ・経営・会計・マーケティング・経営周辺科目の教育目標を設定し、内容の改善を図る。 ・新入生の特徴を把握し授業内容の改善の対応策を立てる。 ・専門科目の授業において、問題発見能力、問題解決能力に関する目標設定を行う。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神、学位授与方針、教育課程編成・実施方針に基づき、幅広い教養と確かな専門性を身に付けさせる教育を実践するため、建学の精神「主・師・親」と、学部各学科の3方針、及びカリキュラムとの整合性を整理して明確化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神「主・師・親」の学部教育への反映を確認するために、建学の精神と学部3方針、各学科3方針、及びカリキュラムとの関係性を図示する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程についてのアセスメント・ポリシーを策定し、学修成果を検証するための具体的取り組みを行う。 ① 各学科の教育課程の効果を評価する項目を策定する。 ② 各学科で取り組む資格の種類と資格志望学生数と合格率との関係を明確にする。 ③ 英検などの語学資格関連の取得を強化する。 ④ 危機管理面並びに当該学生及び保護者の意識に立脚した、留学制度を強化する。 ・履修系統図・科目のナンバリングを導入する。 ① カリキュラムマップを作成し学生に示す。 ② 学生のカリキュラム理解を促進する施策を展開する。 ・問題発見・解決能力を養成する能動的学習の授業を充実する。 ① 「卒業研究」を充実する。 ② 授業時間外の学修を増やすためシラバスを工夫する。 ③ 留学を含めた時間外学習の実態を把握し、時間外学修を促進する。 ・IRを活用し新入生の特徴と大学成績、就職との関連を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科で取り組む、教育課程の評価項目と基準とを明確化する。 ① 各学科の教育課程の効果を評価する項目と評価方法・評価基準を策定する。 ② 語学関連検定、通訳関連検定、教育資格関連、観光案内関連等の各種資格と、合格目標を策定する。 ③ 卒業時における語学資格関連の取得状況を把握し取得促進策を策定する。 ④ 留学に関する保護者の意識を把握し、留学制度の効果と安全とに配慮した制度を各学科で見直し、再構築する。 ・履修系統図・ナンバリングを、全学に合わせて導入する。 ① カリキュラムマップを作成し、学生に示す。 ② 学生に示したカリキュラムマップを説明する機会を設ける。 ・問題発見・解決能力を養成する能動的学習の授業内容を充実する。 ① 必修化された「卒業研究」の発表会を各学科で実施する。 ② シラバス等を活用して時間外学修を促進する方策に取り組む。 ③ 留学時の語学学習・臨地研修を含めた時間外学修の単位化の妥当性を明確化する。 ・学科別に新入生の特徴を把握し対応の方針を策定する。
保健 医療	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程についてのアセスメント・ポリシーを策定し、学修成果を検証するための具体的取り組みを行う。 ・履修系統図・ナンバリング・履修モデル等を利用したカリキュラムの体系化を図り、共通教育と専門教育の関係性を明確化する。 ・問題発見・解決能力を養成するため、能動的学修を行う授業を増やす。 ・ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを策定する。 ・実務家教員が共通教育を教授する過程で、学生が将来就く専門職と社会との関係性を学生に提示し、専門職には教養と専門性の両方が求められるという認識を養う取り組みを行う。 ・授業時間外の学修を増やすための諸施策を検討・実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初年次において、学修成果検証のため、ルーブリックの活用を推進する。 ・指定規則改正に対応した履修系統図・ナンバリング・履修モデル等を利用したカリキュラムの体系化を図り、共通教育と専門教育の関係性を明確化する。 ・初年次において、4年次までのカリキュラム理解を促進する授業（カリキュラム・ツリーの作成）を展開する。 ・カリキュラム・ツリーの見直しを行う。 ・能動的学修を行う授業を増やすため、導入している授業担当者をFD講師として招聘し、改善に必要な方策を検討・実施する。 ・ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを策定する。 ・実務家教員が共通教育を教授する過程で、学生が将来就く専門職と社会との関係性を学生に提示し、専門職には教養と専門性の両方が求められるという認識を養う取り組みを行う。 ・授業時間外の学修を増やすための諸施策を検討・実施する。
看護	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の学修成果を把握及び評価するための看護学部のアセスメント・ポリシーを整備し、それに基づき評価する。 ・看護学部の履修系統図（カリキュラム・ツリー）・履修モデルを作成し、学生のカリキュラム理解を促進する環境を整備する。 ・現行のアクティブ・ラーニングを取り入れた授業方法を学生の問題発見や問題解決能力向上の視点から評価し、その結果を基に改善する。 ・学生の時間外学修を促進するための取り組みを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の学修成果を把握及び評価するための看護学部のアセスメント・ポリシーを策定する。 ・看護学部の履修系統図（カリキュラム・ツリー）を作成する。 ・看護学部の履修モデルを作成する。 ・現在行っているアクティブ・ラーニングを取り入れた授業方法を評価する。 ・シラバス等を利用して時間外学修を促進する取り組みを開始する。 ・空き時間の活用方法として、定期的に指導する機会と場を設定し、実施する。 ・学生生活全体の取り組み方を各学年のオリエンテーションに含める。

全学的な中期目標
2. 学生の主体性及び学習意欲を向上させるため、学修成果の可視化や学習環境の基盤整備等の施策を展開する。

全学的な中期計画	2019年度計画
(1) 学修過程・学修成果を記録し可視化する手法を検討し、実施する。 (2) ICT環境を整備するとともにICTを活用した教育活動を推進する。 (3) ICT等を活用した実質的で利便性の高い補講手法を開発する。 (4) 施設設備の有効活用方策を検討し、学修及び学修支援のための空間を整備する。 (5) 保護者に対して教育内容や学修成果についての情報提供を推進する。	(1) 学修ポートフォリオを導入する。 (2) 学修支援システム(LMS)を導入する。 (3) 2020年度本格実施に向けてLMSを用いた補講の手法を開発する。 (4) 今後のラーニングコモンズについて、具体構想を策定する。 (5) 2020年度本格実施に向けて、学修成果の対保護者開示方針について具体案を策定する。

学部	学部中期計画	2019年度の計画
人間	<ul style="list-style-type: none"> ・学習施設の積極的利用を進める。 ・アクティブラーニングやICTの利用などによる授業改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ラーニングコモンズの利用頻度の実態を把握する。 ・ICTのFDを実施する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・社会的な学びを強化するため、グループワーク、フィールドワーク、社会連携・貢献活動等、学修方法の改善を図る。 ・学部間・学科間連携プログラムや卒業研究合同発表会開催等、学部間・学科間・ゼミ間での教育上の交流を推進する。 ・ICTを活用した授業やe-learningによる教育を導入・推進する。 ・保護者に対して教育方針や学修成果についての情報提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク、フィールドワーク、社会連携・貢献活動等、学生の主体的・社会的な学びに向けた取り組みについて、学部教員を対象にアンケート調査を行う。 ・社会学部DLP学科間連携プログラムの運用上の問題点について精査するとともに、2020年度に向けてメディア学部とのFLP学部間連携プログラムへの再編作業を行う。 ・教養教育機構情報教育部会と連携しながら、初年次教育を中心としたICT活用による双方向型授業やe-learningによる自主学習支援の可能性について意見をとりまとめる。 ・保護者会を定期的に開催し、希望者には個別面談を行い、学科の教育方針や学生の学修成果について情報提供を行う。
メディア	<ul style="list-style-type: none"> ・大学内だけでなく、大学の外での学びを促進する。 ・学修過程・学修成果を記録し可視化する手法を検討・実施する。 ・施設設備の有効活用方策を検討し、学修及び学修支援のための空間を整備する。 ・学部間・学科間連携プログラムなど、学部間、学科間、ゼミ間での教育上の交流を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次から始まる社会連携プログラムの一環であるメディア基礎演習A・Bを通して自主性・主体性を養う。 ・社会連携プログラムの活動を学科広報サイトに掲載し学習意欲の向上を目指す。 ・メディア学部の学びの基盤となるメディアワークショップ、スタジオ等の設備の活用を進める。 ・2020年度に向けて社会学部とのFLP学部間連携プログラムへの再編成を行う。
経営	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の学修成果の発表を促進する。 ・学習施設の積極的利用を進める。 ・アクティブラーニングやICTの利用などによる授業改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスなどで学生の活動発表を行う。 ・ラーニングコモンズの利用頻度の実態を把握する。 ・ICTのFDの実施する。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の主体性及び学習意欲を向上させる施策を展開するために、学習の集大成である「卒業研究」の位置付けを明確化する。 ・学修過程・学修成果を記録し可視化する手法を検討し、実施する。 ・学習環境の基盤としてのICT環境の整備の方針に則りICTを活用した学部教育活動を推進する。 ・ICT等を活用した実質的で利便性の高い予習・復習、補講手法を開発する。 ・学修施設設備の積極的有効活用を進め、学修及び学修支援のための学科の連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が自ら考え主体的に学ぶ4年間の学習成果の集大成である「卒業研究」の発表の機会を明確化するため、卒業研究発表会を各学科で企画し、案内の周知を図り、実施する。 ・カリキュラムマップを作成し、科目のナンバリングを導入するのに伴い、学生が自らの学修成果を可視化できるようにポートフォリオを整備する。 ・ICTに関わる授業内容を工夫するため、シラバスにICTとのかかわりを明記する。 ・ICTを組み込んだ、授業の予習・復習の内容、及び補講の方法を、シラバスに盛り込む。 ・「外国語村」の企画実施、充実を図る。

	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への教育内容や学修成果についての情報提供を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者で組織される「桐光会」役員に参加してもらい、学科教育の検討段階に意見聴取する。
保健 医療	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオやルーブリックを活用し、学修過程・学修成果を記録し可視化する。 ・ICT環境を整備するとともにICTを活用した教育活動を推進する。 ・保護者に対して教育内容や学修成果についての情報提供を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオやルーブリックの活用を推進する。 ・各種検査やPBLのシナリオの実施動画を配信し、学生が繰り返し学習できる環境を整備する。 ・各 Semester ごとに GPA2.0 未満の学生に対してどのようなことが懸念されるか三者で連絡・連携を密にし、面談を実施し、成績改善の方策を促す取り組みを具体化する。
看護	<ul style="list-style-type: none"> ・先進事例の可視化の方法を参考にして学習過程への適用方法を推進する。 ・無線 LAN 等のメディア教育環境の活用・充実を図り、LMS 支援システム等オンライン授業の活用を促進する。 ・教室ならびに実習室の備品等（シミュレーターを含む）の整備点検を行い、計画的に最新版へのバージョンアップを行う。 ・保護者に対して、教育内容・学修成果を発信する情報提供方法を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・可視化の方法（レーダーチャートによる成績の可視化等）の導入を試行する。 ・先進事例の調査を基に動画教材を作成し、授業に活用する。 ・実習中における電子図書等の利用を促進できる環境を整える。 ・看護学部が使用する教室・実習室備品の点検・精選を行う。 ・新しいシミュレーター導入や備品のバージョンアップの希望・要望を把握し、備品購入の5年間の計画を作成する。 ・学生に教育環境（教室・実習室）に関する調査を実施し、改善策を講じる。 ・授業内容等の学部の取り組みをHP上に掲載する機会を増やす。 ・カリキュラム改正用の保護者提示資料を作成し、配布する。

全学的な中期目標
3. 質の高い教育を実現するため、入学前教育の充実、授業改善活動の活性化、学修支援体制の強化を行う。

全学的な中期計画	2019年度計画
(1) 学部学科の特性に応じた入学前教育を実施し、その効果を検証する。 (2) 妥当性の高い授業評価を実現するとともに、授業評価を授業改善に生かすための仕組みを構築する。 (3) 学修上の課題を有する学生を把握し、支援するための体制を確立する。 (4) 教育課程・教育内容・教育方法・入学者選抜等を改善するために、教学 IR の活用を進める。	(1) LMS を用いた入学前教育を実施する。 (2) 授業評価アンケートに授業時間外学修時間についての項目を導入し、結果を共有したうえで授業改善案を策定する。 (3) 学修困難・中退リスクアセスメントに向けて、IR による学修実態分析を進め、年次報告書を配布する。 (4) アセスメントポリシーに基づく学修成果アセスメントを実施すると同時に、教学 IR 推進部署として学長補佐室の開設・充実を図る。

学部	学部中期計画	2019年度の計画
人間	<ul style="list-style-type: none"> 入学前教育として基礎力(国語力など)を高める活動を行う。 障がい学生その他多様な学生への支援を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい入学前教育のプログラムを作成する。 学生支援のための研修や FD を行う。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 入学予定者に対して学科ごとにフォローアップセミナー（入学前教育）を実施し、その効果を検証する。 スタートアップセミナー、フレッシュマンセミナー、ベーシックセミナーにおける初年次教育の効果を検証する。 教学 IR のデータを活用して、教育課程・教育内容・教育方法・入学者選抜等の改善につなげる。 学部 FD 活動の一環として授業改善や学生支援の取組推進のための意見交換会を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学科ごとにフォローアップセミナーを実施し、課題の提出を義務付けることで、入学前教育の効果を検証する。 スタートアップセミナー、フレッシュマンセミナー、ベーシックセミナーとして実施する初年次教育のそれぞれの意味・目標を明確化する。 教学 IR データのうち学科別 GPA 分布を活用し、学年別・入学年度別の学生の傾向性の把握や、入学者選抜方法の適切性の検証につなげる。 専任教員同士の交流と非常勤講師との交流を兼ねて、授業改善や学生支援に関する意見交換会を開催する。
メディア	<ul style="list-style-type: none"> 学部の特性に応じた入学前教育を実施するとともに、入学生の基礎学力向上を支援する体制を整備する。 学修上の課題を有する学生を把握し、支援するための体制を整備する。 教育課程や教育内容などの授業改善の推進体制を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学部の特性に応じたプログラムによるフォローアップセミナーを実施し、課題の提出を義務付けることで入学前教育の充実を図る。また、全ての新生に日本語検定模擬試験を実施して、基礎学力向上を支援する体制を検討する。 フレッシュマンセミナー及びベーシックセミナーを少人数制クラスで担当することにより、各学生の学修上の課題を把握支援できる体制を構築する。さらに、1年次科目担当の教員から学修に課題を有する学生を共有し、早期発見に努める支援体制を構築する。 全学的に隔年実施している授業評価アンケートを、毎年度全科目で実施することにより授業改善の活性化を図る。また、客観的データ(教学 IR 等)を活用して、教育課程や教育内容などの改善につなげる方策を検討する。
経営	<ul style="list-style-type: none"> 経営学の学修に必要な科目に関するリメディアル教育を行って、基礎学力を向上させる。 多様な学生への支援を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> リメディアル教育のプログラムを作成する(実施する科目、委託する外部業者の選定など)。 学生支援のための研修や FD を行う。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 入学前教育の充実を図り、外国語学部の各学科の特性に応じた入学前教育を改善し、その効果を検証する。 妥当性の高い授業評価を実現するとともに、授業評価を授業改善活動の活性化に生かすための仕組みを構築する。 学修支援体制の強化を行うために、学修上の課題を有する学生を把握し、支援するための体制を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学科の入学前教育の取組みを拡充する。外部業者に委託している入学前教育・入学直後教育のプログラムを改善し、プレースメントテストとの関連性を強化する。 教育課程・教育内容・教育方法を改善するために、教学 IR の活用を進める。まず、ICT 関連やアクティブラーニングの FD を実施して、授業への導入方法を検証する。 学生支援のための研修や FD を実施する。

	<p>① 障がい学生への支援を充実させる。</p> <p>② 多様な学生への支援を充実させる。</p>	<p>① 障がい学生の支援を担当が計画する。</p> <p>② 多様な学生への支援の充実を担当業務とする。</p>
保健 医療	<ul style="list-style-type: none"> ・学部学科の特性に応じた入学前教育を実施し、その効果を検証する。 ・授業評価を授業改善に生かすための取り組みを行う。 ・学修上の課題を有する学生を把握し、支援するための体制を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学前教育のさらなる充実を目指して現在実施している入学前教育の効果検証を実施する。 ・授業評価の高い教員や評判の良い非常勤講師によるモデル授業を推進する。 ・授業評価のデータを解析し、教員間で情報共有する。 ・学修上の課題を有する学生を早期に抽出し、解決策を講ずる。
看護	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学科の特性に応じた入学前教育を実施し、その効果を検証する。 ・妥当性の高い授業評価を実現するとともに、授業評価を授業改善に生かすための仕組みを構築する。 ・学修上の課題を有する学生を把握し、支援するための体制を確立する。 ・教育課程・教育内容・教育方法・入学者選抜等を改善するために、教学 IR の活用を推進する。 ・資格取得(保健師・看護師)のための学習体制を整備し支援活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・推薦入試・AO入試で入学する学生を対象として、生物学など必要な科目に特化した入学前教育を実施する。 ・推薦入試・社会人入試で入学した学生を対象とした入学前フォローアップ研修を継続実施する。 ・入学前教育を受けた学生の1年間の学習状況から、入学前教育の効果について検証する。 ・授業評価の結果を受けて、授業改善の方法などについて、授業ごとに検討し、結果を学生にフィードバックする。 ・各領域の実習評価を学科内で共有し、改善策を講じる。 ・学修・生活上の課題の多い学生に対する学修支援体制を再構築する。 ・国家試験対策において、成績ランクが上がらない学生に対しては、個別支援を強化する。 ・教学 IR に関する活用方法について、情報収集する。 ・国家試験対策を学科で組織的、計画的に実施する。 ・医療専門職としての自覚を高めるための課外授業を実施する。

全学的な中期目標
4. 学生の多様なニーズに対応し、学生生活が充実したものとなるよう、課外活動、社会的活動、就職活動など学生への手厚い支援を実施する。

全学的な中期計画	2019年度計画
(1) 適切な学生対応のための研修の実施やガイドラインの策定などを行う。 (2) 障がいをもつ学生に対する支援体制を整備するとともに、学生同士の支え合いを促進するため、正課・課外を通じたボランティア養成を推進する。 (3) キャリア教育及び進路支援について、成果検証を行い改善を図るとともに、PDCAサイクルによる改善体制を確立する。 (4) 学部学科間の教育上の交流を推進するとともに、学生の学内流動性を高めるための諸方策を検討、実施する。	(1) 学生対応に関する研修を教職員向けに実施する。 (2) 障がい等学生支援室を新体制とし、支援室と学部・学科の協力体制を構築する。 (3) キャリア教育及び進路支援についての成果指標を検討したうえで、2020年度からのアセスメント導入に向けて具体的準備を行う。 (4) ①新しい転学科規程に基づく転学科を実施する。 ②DLP、FLPの発展形としての副専攻プログラムの具体策を策定する。

学部	学部中期計画	2019年度の計画
人間	<ul style="list-style-type: none"> 学生の社会的活動を促進する。 就職への支援体制を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動への参加状況を調査する。 免許・資格取得の支援体制づくりを検討する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得や検定受験のための支援体制を確立する。 キャリア教育や進路支援のための体制を確立する。 ボランティア活動や課外・社会的活動を支援し、その成果発表の機会を設ける。 障がい等のある学生に対する支援体制を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会調査士、学芸員、教員等の資格・免許取得や、日本語検定等の検定合格の実績を上げるための具体的支援策を策定し実施する。 キャリアデザイン、インターンシップ、就職ガイダンス等、各段階に相応しい支援策の見直しを行い、就職内定率100%を目指す。 ボランティア活動や課外・社会的活動に関する情報を学部で共有し、優れた成果を収めた学生には発表の場を設ける。 障がい等のある学生に対しては、関係部署との連携を図りながら、組織的な体制で臨み、出来る限りの支援を行う。
メディア	<ul style="list-style-type: none"> 日本語検定全学部生一斉受験に加え、段階的により上級に挑戦していくように継続的な指導・支援を実施する。 インターンシップに繋がる社会連携科目がメディア学部のカリキュラムの一つの特徴であり、それらの科目を通じて積極的なインターンシップへの意欲を強化する施策を展開する。 特徴的な施設や設備、機材などを要するメディア学部において、それら学習環境の使用感を在学中の障がい等のある学生から随時意見を聞き、迅速に対処できる仕組みを整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得促進として日本語検定を全学科生に受験させる。 インターンシップへの積極的な参加を促進させる。 障がい等のある学生の支援を関係部署と連携しながら出来る限りの支援を行う。
経営	<ul style="list-style-type: none"> 学生の社会的活動を促進する。 経営学部の学生の幅広い就職ニーズに対する支援体制を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動への参加状況を調査する。 資格取得のための支援体制を拡充することを検討する。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 学生の多様なニーズに対応し、学生生活が充実したものとなるよう、課外活動、社会的活動、就職活動などを手厚く支援する。適切な学生対応のための研修を実施し、ガイドラインを学ぶ。 障がいをもつ学生に対する支援体制を整備するとともに、学生同士の支え合いを促進するため、正課・課外を通じたボランティア活動を推進する。 キャリア教育及び進路支援について、成果検証を行い改善を図るとともに、PDCAサイクルによる改善体制を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国語村、映画祭、歓送会、体育祭、学園祭参加、研究発表会など、課外活動、社会活動、就職活動に寄与する学部学科行事を推進する。 ① 従来同様、行事に教員も関わる仕組みを作る。 ② 学生活動のためのFDを実施する。 ③ ハラスメントを生じない配慮のためのガイドラインを確認する機会を設ける。 メジスタ、ノートテイキングなどのボランティアの機会を紹介して周知する。 進路支援の方策を実施する。 ① 免許・資格取得の支援体制を策定する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・学部学科間の教育上の交流を推進するとともに、学生の学内流動性を高めるための諸方策を検討、実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ② 大学院進学を勧める。 ③ 就職への支援体制を充実する。 ・学部学科間の共通行事を検討し、実施する。
保健 医療	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な学生対応のための研修の実施やガイドラインの策定などを行う。 ・障がい等をもつ学生に対する支援体制を整備するとともに、学生同士の支え合いを促進するため、正課・課外を通じたボランティア養成を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生のボランティア活動を支援する方策を具体化する。 ・障がい等をもつ学生に対する支援体制を整備し、ボランティア学生養成の取り組みを行う。
看護	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な学生対応のため研修を行う。 ・障がいをもつ学生に対する支援体制を整備する。 ・キャリア教育及び進路支援について、成果検証を行い改善を図るとともに、PDCA サイクルによる改善体制を確立する。 ・学部学科間の教育上の交流を推進するとともに、学生の学内流動性を高めるための諸方策を検討、実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学科のFD委員会が、学生対応に関する研修（ハラスメント等）を企画し参加を促す。 ・障がいをもつ学生への支援体制として、入学前より状況を把握し個別対応ができるように体制を整えていく。 ・学生課と連携して組織的に、ガイダンス・就職説明会を実施し、評価し改善する。 ・面接や小論文の書き方に関する講義を実施する。 ・就職状況を確認し、卒業生の意見を聞きながら次年度の就職支援方法を改善する。 ・卒業生を大学に招き、就職活動や在学中にやるべきこと等を話してもらうことで、学生のキャリア形成への意識を高める機会とする。 ・学部外の教員に関連する科目の一部を担当してもらうことにより、それぞれの専門性を学生に理解させる。

全学的な中期目標
5. 入学者受け入れ方針に定めた資質・能力を有する学生を受け入れるため、学力・意欲・適性等の点から入学者を総合的に評価する入学者選抜を実施する。

全学的な中期計画	2019年度計画
(1) 入学者受け入れ方針に沿った入学者選抜を実施する。	(1) 全学部学科の「入学者受け入れ方針(AP)」に沿った入学者選抜方法を再検討する。

学部	学部中期計画	2019年度の計画
人間	・各学科の受け入れ方針に合う入学者選抜を実施する。	・学科において入学者選抜方法を再検討する。
社会	・入学者受け入れ方針に沿った入学者選抜を実施する。	・とくに AO 入試や推薦入試においては、AP に定める資質・能力を有する学生かどうか精査の上、受け入れ可否を判断する。
メディア	・入学者受け入れ方針に沿った入学者選抜を実施する。	・第1期生（2018年度入学者）について、受験制度と入学後の状況とを照合し、傾向を探る。 ・AO入試等での選抜方法の検討を進める。
経営	・学科の受け入れ方針に合う入学者選抜を実施する。	・学科において入学者選抜方法を再検討する。
外国語	・入学者受け入れ方針に定めた資質・能力を有する学生を受け入れるため、学力・意欲・適性等の点から入学者を総合的に評価する入学者選抜を実施する。 ・各学科の受入方針に合う入学者選抜を実施する。	・入試形態と学部教育、進路との関係を、具体的に把握する。 ・新入生の特徴を把握して、入学者選抜方法を再検討する。
保健医療	・APを策定する。 ・AO入試、推薦入試、一般型入試制度とアドミッション・ポリシーの関係を明確にすることで、入試種別に応じた多様な入学者選抜を実施する。	・APを策定する。 ・各入試種別がAPに基づいた選抜となっているか検証し、入試種別ごとに入学希望者に求める能力を適切に判定できる入学者選抜方法を具体化する。 ・AO入試では面接に加え、プレゼンテーション導入を試行する。
看護	・高大接続改革による入学者選抜制度の新たなルールを踏まえ、学部のAPを反映した入学者選抜を計画・実施する。 ・IRデータ等を用いて入学後の学力・成績（単位取得、GPA等）や進路と入試種別等を検証し、入学者選抜における出願基準や総合的評価方法を確立する。	・APとの整合性を確認しながら、学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を多面的・総合的に評価する方法を選抜種別ごとに検討し、具体化する。 ・入学者選抜における総合的評価方法の検討に必要な項目について、IR部門と協働してデータを分析し、各選抜方法の検討資料を作成する。

全学的な中期目標
6. 本学の個性・特徴を学生募集活動に生かすため、教育・研究成果等の広報活動を強化する。

全学的な中期計画	2019年度計画
(1) 教職員による優れた教育活動を広報に生かす方策を検討、実施する。 (2) 学生による優れた学習成果や活動成果を広報に生かす方策を検討、実施する。	(1) 「学科広報プロジェクト」を実施する。 (2) 「学生広報プロジェクト」の実施に向けて具体的実施案を策定する。

学部	学部中期計画	2019年度の計画
人間	・学科やゼミなどの広報活動方法を検討実施する。	・インターネットやホームページなどを利用した広報活動を検討する。
社会	・学部・学科の広報活動の一環として、教員による研究教育活動や社会貢献活動の成果を積極的に情報発信する。 ・学部・学科の広報活動の一環として、学生による主体的・社会的な学びの成果を積極的に情報発信する。	・教員による研究教育活動や社会貢献活動の成果を大学ホームページの学部・学科サイトや各種メディアを通じて積極的に情報発信するように働きかける。 ・学生による主体的・社会的な学びの成果を大学ホームページの学部・学科サイトや目白大学新聞、オープンキャンパス等を通じて積極的に情報発信するように働きかける。
メディア	・教職員による優れた研究や教育活動を広報に生かす方策を検討、実施する。 ・学生による優れた学習成果や活動成果を広報に生かす方策を検討、実施する。	・各教員に対して積極的に働きかけ、目白大学のサイトならびに学科ウェブサイト等で活動や成果を発信するよう努める。 ・オープンキャンパス等の場で学生による活動成果発表などを積極的に行う。
経営	・経営学部・学科やゼミなどが行う活動に関わる広報活動方法を検討、実施する。	・インターネットやホームページなどを利用した広報活動を検討する。
外国語	・学部学科の個性・特徴を学生募集活動に生かすため、教育成果・研究成果等の広報活動を強化する。 ・教員による優れた研究や教育活動を広報する。 ・学生による優れた学習成果や活動成果を広報に生かす方策を検討、実施する。 学科やゼミなどの広報活動方法を検討実施する。	・インターネットやホームページなどを利用した広報活動を推進する。 ・教員の活動を広報する。 ・ゼミ活動を奨励し、活動記録を広報する。ゼミ発表などを実施し、広報に生かす。
保健医療	・教職員による優れた研究や教育活動を広報に生かす方策を検討・実施する。 ・学生による優れた学習成果や活動成果を広報に生かす方策を検討・実施する。	・地域連携・研究推進センター岩槻分室で企画・運営している内容や、大学 HP にアップしている内容（特色のある授業や教員の教科書出版情報など）を、県内の高校生や地域住民にアピールすることを具体化する。 ・いわつきマルシェに併設する「健幸ブース」や各種イベントに、学生がボランティアとして参加する仕組みを作り、大学で学修した成果を地域住民に還元する。
看護	・教職員による優れた研究や教育活動・教育実績、及び充実した教育環境を広報に生かす方策を検討、実施する。 ・学生による優れた学習成果や活動成果を広報に生かす方策を検討・実施する。	・教員の活動を紹介する効果的な媒体を検討し、積極的に発信する。 ・指定校推薦、入学者が多い高校への出張授業や、教育実績、教育環境等の広報活動を強化する。 ・目白研心中学校、高等学校での保健等の授業における教育連携を活性化する。 ・学生の学習活動や学習成果を高校生や教職員が視聴するメディア等に積極的に発信する。 ・出身高校に向けて学生が大学生活を紹介する方法を検討し、発信する。

2. 研究

全学的な中期目標
1. 研究水準の向上を図るため、研究支援体制を強化するとともに研究費配分の仕組みを整備する。

全学的な中期計画	2019年度計画
(1) 研究支援に関わる教職員の育成・確保方策を検討するとともに、研究支援に関するSD・FDを推進する。	(1) 研究支援に関わる教職員の育成・確保方策を検討するとともに、研究支援のためのFD・SD研修の具体案を打ち出し、全学FD・SD研修会において研究支援に特化したプログラムを取り入れる。
(2) 研究を活性化するための研究費配分方法を検討・実施する。	(2) 特別研究費の申請要件の変更を行い、研究に意欲のある教員に対する支援を強化する。

学部	学部中期計画	2019年度の計画
人間	・研究水準の向上を図る。	・学科ごとに研究業績や獲得研究資金をデータとして整理する。
社会	・共同研究・研究交流を促進するための研究会を学部内に組織する。	・学部内での研究情報の共有とそれを踏まえた共同研究のための研究交流会の開催に向けた準備作業を行う。
メディア	・学部内の研究交流等を促進するための体制を整備する。 ・入学希望者にも研究成果を発信していく。	・研究報告会や社会連携事例報告会などの開催に向けた準備作業を行う。 ・各担当教員に対して積極的に働きかけ、目白大学のサイト及び学科ウェブサイト等で活動や成果を発信するよう努める。
経営	・経営学部所属の教員の研究水準の向上を図る。	・研究業績や獲得研究資金をデータとして整理する。
外国語	・研究水準の向上を図るため、研究支援体制を強化するとともに研究費配分の仕組みを学ぶ。 ・研究水準の向上を図る。研究支援に関わる教職員の育成・確保方策を検討するとともに、研究支援に関するSD・FDを推進する。 ・研究を活性化するための研究費配分方法を検討・実施する。	・学科ごとの研究業績を整理して把握する。 ・学科ごとの研究会を実施する。 ・研究費配分方式の意見を集約する。
保健医療	・研究水準の向上を図る。	・学部単位での研究発表会を定例化し、教員相互のレベルアップを図る。
看護	・研究水準の向上を図る。	・国内外の研修その他関連学会への参加を促し、自己啓発の機会を増やす。 ・科研費への応募を推進し、自らの研究モチベーションを高める。

全学的な中期目標
2. 外部資金等獲得支援体制の整備及び積極的かつ柔軟な研究活動を可能にする条件整備を行う。

全学的な中期計画	2019年度計画
(1) 研究活動を可能にする条件整備について検討、実施する。 (2) 研究力を向上させるためのFD研修を強化する。	(1) 教員の長期研修制度を実質化し、秋学期より実施する。 (2) 科研費等の競争的資金獲得のための説明会・研修会を開く。

学部	学部中期計画	2019年度の計画
人間	・研究活動を促進する条件を検討し実施する。	・研究活動に対する支援や要望について把握する。
社会	・教員業績評価の実施体制構築を受けて、研究活動を促進するための条件整備を行う。	・研究業績を客観的に評価し、研究活動にインセンティブを与えるための条件整備に向けた議論に着手する。
メディア	・学部内の研究支援体制の充実化を図る。	・研究支援体制の充実化に向けた議論に着手する。 ・科研費など外部資金の獲得を目指す。
経営	・研究活動を促進する条件を検討し実施する。	・研究活動に対する支援（研究時間の確保）や要望について把握する。
外国語	・外部資金等獲得支援体制の整備及び積極的かつ柔軟な研究活動を可能にする条件整備を行う。 ・研究活動を促進する条件を検討し、支援案を策定し、実施する。 ・研究力を向上させるためのFD研修を実施する。	・外部資金を獲得する研究活動に対する支援案を策定する。 ・研究活動に対する支援案を策定する。 ・研究に関するFDを各学科で実施する。
保健 医療	・研究力を向上させるためのFD研修を強化する。	・学部単位でのFD研修会を実施する。
看護	・学際的視野をもって、柔軟な研究活動を推進する。	・研究科との連携において、外部資金獲得に向けた情報を定期的に公開できるようにする。 ・個人及び共同研究を推進する。 ・長期休暇を利用した研究活動を推進する。 ・海外の協定校への積極的派遣及び交流において、学際的研究の可能性を追求できる機会を整える。

全学的な中期目標
3. 研究成果の社会及び教育への還元を推進する。

全学的な中期計画	2019年度計画
(1) 高等教育に関わる研究を支援する体制を整える。 (2) 地域社会（地方及び近隣）・産業界が抱える諸課題の解決に向け、関係諸機関と連携した研究を支援する体制を整備する。	(1) 「目白大学高等教育研究」「人と教育」において、高等教育研究をテーマとした論文の投稿数を増やす。 (2) 新宿区との包括連携協定に基づき、「目白エリア賑わい創出」事業に着手し、地域連携・研究推進センターを中心として事業の支援を行う。

学部	学部中期計画	2019年度の計画
人間	・ 関連機関との協働活動を推進する。	・ 現在実施している社会活動を把握し継続発展させる。
社会	・ 社会教育・生涯学習分野における社会への知の還元を推進する。 ・ 地域連携・産学官民連携等による研究・社会貢献活動を推進する。	・ 社会教育・生涯学習に資するような公開講座、講演会、ワークショップ等の企画を学部・学科主催で積極的に開催する。 ・ 市民、行政、企業、NPO/NGO、学校・教育機関、社会教育施設等との連携を強化し、研究開発・社会貢献活動を推進する。
メディア	・ 学部内の知見や研究成果を、社会連携プログラム等を通じて、社会・教育に発信、還元する。 ・ 社会へ発信していく機会を設ける。	・ 社会連携プログラム等を通じた社会・教育への発信・還元の方法を検討する。 ・ 講演会などを開催し、研究者のみならず学生や外部の人々と研究成果を共有する。
経営	・ 目白大学周辺等に存在する関連諸機関との協働活動を推進する。	・ 他大学あるいは他の研究機関、企業との連携を継続発展させる。
外国語	・ 研究成果を社会及び教育へ還元する。高等教育に関する研究を支援する。 ・ 地域社会（地方及び近隣）・産業界が抱える諸課題の解決に向け、関係諸機関と連携した研究を支援する。	・ 現在実施している社会活動を把握し継続発展させる。『高等教育研究』への投稿を支援する。 ・ 関係機関との連絡会を実施する。
保健医療	・ 地域社会（地方及び近隣）・産業界が抱える諸課題の解決に向け、関係諸機関と連携した研究を支援する体制を整備する。 ・ 高等教育に関わる研究を支援する体制を整備する。	・ 診療参加型実習に関する研究を開始し、その成果を広く発信する。 ・ 「会話能力向上プロジェクト研究」のさらなる推進を図るとともに、汎用化を目的に指導用 DVD 教材の作成を試行する。
看護	・ 研究成果の社会への還元及び教育への還元を推進する。	・ 教育研究の成果と教育実践との連動を図る。 ・ 看護協会や実習病院との連携のもと、共同研究や講師派遣を精選して継続できる環境を整える。

3. 管理運営

全学的な中期目標
1. 会議・委員会等校務の実質化と効率化を図る。

全学的な中期計画	2019年度計画
(1) 会議の目的を明確化した上で人員構成、開催頻度、委員会の統合等を検討し、効率的な会議運営を実現する。	(1) 学内の会議や各委員会の分掌を再確認し、規定に基づいた運営を行うよう努める。
(2) 委員会等の実質化を図るため、報告事項の簡素化・効率化と年度計画に沿った計画的審議を推進する。	(2) 年度初めに、各委員会の日程・年度計画の周知を図り、それに基づいた審議を行うよう心がける。

学部	学部中期計画	2019年度の計画
人間	・学部・学科内の会議の頻度・時間・実施方法を再検討し効率化する。	・学部及び学科の会議の実態を把握する。
社会	・各種校務の効率化と平準化を図り、学科内の適切な役割分担に努める。 ・学部内に中期計画実施のための各種ワーキンググループを組織する。	・学科長の差配のもと適材適所の役割分担と各種校務の効率化・平準化を徹底する。 ・中期計画の着実な実施に向けて学部内に各種ワーキンググループを組織する。
メディア	・校務の効率化のために、学部学科内で適切な役割分担を行う。 ・中期計画実施のため、学部学科内でワーキンググループを組織する。	・校務については各教員の適性や経験を加味し、検討した上で毎年分担を決定する。 ・中期計画を確実に実行するため、学科全教員を各ワーキンググループに振り分けて組織する。
経営	・学部・学科内の会議の頻度・時間・実施方法を再検討し効率化する。	・学部及び学科の会議の実態を把握する。
外国語	・会議・委員会等校務の実質化と効率化を図り、学部・学科内の会議公務の頻度・時間・実施方法を把握する。 ・会議・委員会の目的を明確にし、委員会の統合を検討する。 ・委員会公務等の実質化を図り、報告事項のWEB化・効率化と年度計画に沿った計画的審議を推進する。	・少人数の学科で構成される学部の委員会校務の実態を把握する。 ・委員会の統合を図る。 ・報告・連絡の漏れがないように、WEBによる報告・連絡が密になるようにする。
保健医療	・会議の目的を明確化した上で人員構成、開催頻度、委員会の統合等を検討し、効率的な会議運営を推進する。	・各種会議の目的と意義を再点検する。
看護	・会議・委員会業務の効率的運営を推進する。	・会議審議の内容精選の上、効率化の視点で年間計画の見直しを行う。 ・各委員会活動内容及び実施手続きの効率化や適正化のための見直し及びフローチャートなどにより運営を可視化する。

全学的な中期目標
2. 透明性の高い人事評価制度を実現する。

全学的な中期計画	2019年度計画
(1) 多様な業績を公平に評価し、研究費や昇格等に反映させる制度を構築する。	(1) 新たに策定された「教員業績評価に関する規則」に基づき、評価方法を確定し、年度末に実際の評価を行う。

学部	学部中期計画	2019年度の計画
人間	・人事評価基準をなるべく具体的なものとして設定していく。	・昇進・無期転換の基準を検討する。
社会	・教員の新規採用にあたっては、計画的で透明・適正な人選を行う。	・教員の新規採用にあたっては、各学科の中長期的な人事構想と教育課程編成方針に基づく合意形成により透明かつ適正な人選を行う。
メディア	・新学部の完成年度をめどに、新規人事採用について計画する。	・学部学科内で協議し、中・長期的な人事構想を立てる。
経営	・人事評価基準をなるべく具体的なものとして設定していく。	・採用・昇進・無期転換の基準を再検討した上で、必要な論文数等を明確にする。
外国語	・透明性の高い人事評価制度を実現するため、人事評価基準を具体的に設定する。 ・多様な業績を公平に評価し、研究費や昇格等に反映させる。	・大学の人事評価基準設定に合わせ、学部特有の人事評価基準を設定する。 ・昇格・無期転換の基準を設定する。
保健 医療	・透明性の高い人事を行うことを目標とする。	・中期人事計画を作成し、計画的な人事を実施する。個別案件ごとに学部予備選考委員会・教員資格審査委員会のチェックを受ける。
看護	・透明性の高い人事を行う。	・人事に関する中期計画を透明性の観点から見直す。 ・人事規則を教員全員に周知しつつ、本人のキャリアプランへの自覚を促す。

全学的な中期目標
3. 自己点検評価の実質化を図る。

全学的な中期計画	2019年度計画
(1) 教員業績データベースの利便性の向上を図るとともに、自己点検評価との連動性を高める。	(1) 外部の教員業績評価システムを導入し、試験的に評価を行う。

学部	学部中期計画	2019年度の計画
人間	・大学の自己点検評価を学部・学科内での評価に反映させる。	・新しい自己点検評価の利用方法を検討する。
社会	・毎年度自己点検評価の実施とともに、教員業績データベースの更新を徹底する。	・教員業績評価システム構築の布石として、成果・実績報告書の提出とともに教員業績データベースの更新を徹底する。
メディア	・年度ごとの自己点検評価をもとに、教員業績データベースの更新を徹底する。	・各年度の成果・実績報告書の提出に合わせ、教員業績データベースの更新を徹底する。
経営	・大学の自己点検評価を経営学部・学科内での評価に反映させる。	・新しい自己点検評価の利用方法を検討する。
外国語	・自己点検評価を実質化する。 ① 自己点検評価表の「計画」に基づいて「実施」が評価されるようにする。 ② 大学の自己点検評価を学部・学科内での評価に反映させる。 ・教員業績データベースの利便性の向上に伴って、自己点検評価と連動させる。	・自己点検評価が大学学部学科の評価になるように実質化する。 ① 自己点検評価の「計画」の「実施」が点数化して判断できるよう項目を策定する。 ② 自己評価が学科学部の評価となるように、項目を明確化する。 ・教員業績データベースの入力を年度末に全員が行う。
保健 医療	・教員業績データベースの利便性の向上を図るとともに、自己点検評価との連動性を高める。	・評価者の役割を明確化し、自己点検結果が効果的に改善される方策を具体化する。
看護	・自己点検評価と教員業績データベースの連動性を高める。	・教員のモチベーション向上のための自己点検評価の活用の見直しを図る。

第3部 目白大学短期大学部

1 教育

全学的な中期目標
1. 学位授与方針及び教育課程編成・実施方針に基づき、幅広い教養と確かな専門性を身に付けさせる教育を実践する。

全学的な中期計画
(1) 教育課程についてのアセスメント・ポリシーを策定し、学修成果を検証するための具体的取り組みを行う。
(2) 履修系統図・ナンバリング・履修モデル等を利用したカリキュラムの体系化を図るとともに、学生のカリキュラム理解を促進する施策を展開する。
(3) 問題発見・解決能力を養成するため、能動的学修を行う授業を増やす。
(4) 授業時間外の学修を増やすための諸施策を検討し、実行する。

短期大学部中期計画	2019年度の計画
<ul style="list-style-type: none"> ・DPを具現化するカリキュラムを構築する。 ・カリキュラムの体系化を図り、学生の系統立てた履修を促す。 ・「事前学習・事後学習」の実質化を図る施策を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・DPに関連づけたルーブリックの導入に向けた検討を行う。 ・シラバスへの記入を徹底し、授業時に事前学習・事後学習の具体的な内容を指示する体制を構築する。

全学的な中期目標
2. 学生の主体性及び学習意欲を向上させるため、学修成果の可視化や学習環境の基盤整備等の施策を展開する。

全学的な中期計画
(1) 学修過程・学修成果を記録し可視化する手法を検討し、実施する。
(2) ICT環境を整備するとともにICTを活用した教育活動を推進する。
(3) ICT等を活用した実質的で利便性の高い補講手法を開発する。
(4) 施設設備の有効活用方策を検討し、学修及び学修支援のための空間を整備する。保護者に対して教育内容や学修成果についての情報提供を推進する

短期大学部中期計画	2019年度の計画
<ul style="list-style-type: none"> ・履修科目計画や自己評価を記入させるためのシステムを整備する。 ・保護者に対する学習成果についての情報提供システムを構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現存の履修科目計画・自己評価シートを「ベーシックセミナー」、「キャリアデザイン」、「セミナー」にて確実に導入し、就業意識の涵養を目指す。 ・春学期末・秋学期末に保護者に成績等を送付するシステムの準備を進める。

全学的な中期目標
3. 質の高い教育を実現するため、入学前教育の充実、授業改善活動の活性化、学修支援体制の強化を行う。

全学的な中期計画
(1) 学部学科の特性に応じた入学前教育を実施し、その効果を検証する。
(2) 妥当性の高い授業評価を実現するとともに、授業評価を授業改善に生かすための仕組みを構築する。
(3) 学修上の課題を有する学生を把握し、支援するための体制を確立する。
(4) 教育課程・教育内容・教育方法・入学者選抜等を改善するために、教学 IR の活用を進める。

短期大学部中期計画	2019年度の計画
<ul style="list-style-type: none"> ・入学前教育の効果的な方法を構築する。 ・「授業参観」実施などを通じて、個々の教員による授業改善に向けた取組みを支援する体制を整備する。 ・「授業評価アンケート」等を共有・検証し、短期大学部全体の授業改善に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・e-learning【メジプロ】を活用し、入学前教育の徹底を図る。 ・短大の学びに結びつく課題を与え、入学後の学習に接続させる。 ・「授業参観」アドバイスを受けて改善した内容を、次年度に報告するシステムを構築する。 ・「授業評価アンケート」を受けて改善した内容を、次年度に報告するシステムを構築する。

全学的な中期目標
4. 学生の多様なニーズに対応し、学生生活が充実したものとなるよう、課外活動、社会的活動、就職活動など学生への手厚い支援を実施する。

全学的な中期計画
(1) 適切な学生対応のための研修の実施やガイドラインの策定などを行う。
(2) 障がいをもつ学生に対する支援体制を整備するとともに、学生同士の支え合いを促進するため、正課・課外を通じたボランティア養成を推進する。
(3) キャリア教育及び進路支援について、成果検証を行い改善を図るとともに、PDCAサイクルによる改善体制を確立する。
(4) 学部学科間の教育上の交流を推進するとともに、学生の学内流動性を高めるための諸方策を検討、実施する。

短期大学部中期計画	2019年度の計画
<ul style="list-style-type: none"> ・多様な学力レベルの学生の学習意欲に応えるべく、クラス担任・科目担当者は学習支援センターと連携して対応する。 ・キャリアセンターと連携し、キャリア教育・就職支援を充実させる。 ・短期大学部3学科及び大学との科目の連携について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援センターと連携して、中途退学者の予防策を効果的に実施する。 ・キャリアセンターとの連絡を密にして、保護者会、キックオフ大会を実施するとともに、各授業の中でも就業意識を高める工夫をする。 ・他学科開放科目、大学との連携科目について検討する。

全学的な中期目標
5. 入学者受け入れ方針に定めた資質・能力を有する学生を受け入れるため、学力・意欲・適性等の点から入学者を総合的に評価する入学者選抜を実施する。

全学的な中期計画
(1) 入学者受け入れ方針に沿った入学者選抜を実施する。

短期大学部中期計画	2019年度の計画
<ul style="list-style-type: none"> ・学科の特徴に相応しい学生確保の方策を検討し実行する。 ・学科特性と AP との有機的な連携を検討し、入学者選抜に生かす方策を検討、実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学科の特性に基づいた入学選抜の方法について検討する。 ・AO 入試の選抜方法について検討する。

全学的な中期目標
6. 本学の個性・特徴を学生募集活動に生かすため、教育・研究成果等の広報活動を強化する。

全学的な中期計画
(1) 教職員による優れた研究や教育活動を広報に生かす方策を検討、実施する。 (2) 学生による優れた学習成果や活動成果を広報に生かす方策を検討、実施する。

短期大学部中期計画	2019年度の計画
・学科の特性を活かし、教育・研究等の成果による多様な広報活動を構築する。	・学園の HP やブログ等により、学科の教育・研究成果についてのタイムリーな発信を心がける。

2 研究

全学的な中期目標
1. 研究水準の向上を図るため、研究支援体制を強化するとともに研究費配分の仕組みを整備する。

全学的な中期計画
(1) 研究支援に関わる教職員の育成・確保方策を検討するとともに、研究支援に関するSD・FDを推進する。
(2) 研究を活性化するための研究費配分方法を検討・実施する。

短期大学部中期計画	2019年度の計画
<ul style="list-style-type: none"> ・研究力の向上を目指し、研究交流会・研究発表会等の短期大学部全体でのFD研修を実施する。 ・学会誌・紀要への投稿を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短期大学部として研究発表会・研究交流会を実施し、研究に対する支援を行う。 ・学会誌・紀要への投稿を促す。

全学的な中期目標
2. 外部資金等獲得支援体制の整備及び積極的かつ柔軟な研究活動を可能にする条件整備を行う。

全学的な中期計画
(1) 研究活動を可能にする条件整備について検討、実施する。
(2) 研究力を向上させるためのFD研修を強化する。

短期大学部中期計画	2019年度の計画
<ul style="list-style-type: none"> ・学内特別研究費を活用し、科研費に結びつくような研究を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究交流会・研究発表会を実施することで、教員の研究意欲の向上を図る。

全学的な中期目標
3. 研究成果の社会への還元及び教育への還元を推進する。

全学的な中期計画
(1) 高等教育に関わる研究を支援する体制を整える。
(2) 地域社会（地方及び近隣）・産業界が抱える諸課題の解決に向け、関係諸機関と連携した研究を支援する体制を整備する。

短期大学部中期計画	2019年度の計画
<ul style="list-style-type: none"> ・産学共同事業への積極的参加を推進する。 ・地域・社会に向けて、各学科の特色を生かした公開講座等を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・産学共同事業の連携先について再検討する。 ・地域・社会に向けた公開講座では新規受講者を増やし、各学科の知名度アップに活用する。

3 管理運営

全学的な中期目標
1. 会議・委員会等校務の実質化と効率化を図る。

全学的な中期計画
(1) 会議の目的を明確化した上で人員構成、開催頻度、委員会の統合等を検討し、効率的な会議運営を実現する。
(2) 委員会等の実質化を図るため、報告事項の簡素化・効率化と年度計画に沿った計画的審議を推進する。

短期大学部中期計画	2019年度の計画
<ul style="list-style-type: none"> ・会議・委員会の統廃合も視野に入れ、効果的な会議運営を推進する。 ・学科の教員数に応じて、短大全体として校務のバランスを考慮した委員会の人員構成を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短期大学部の会議・委員会について、統廃合も含めた検討を行う。 ・短期大学部全体として考え、学科にこだわらず教員数に応じた委員会担当者の配置を検討する。

全学的な中期目標
2. 透明性の高い人事評価制度を実現する。

全学的な中期計画
(1) 多様な業績を公平に評価し、研究費や昇格等に反映させる制度を構築する。

短期大学部中期計画	2019年度の計画
<ul style="list-style-type: none"> ・多様な業績を公平に評価するシステムを構築し、昇格等に反映させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究業績だけにとどまらず、教育・校務等における貢献などの要素に基づく評価制度のあり方について検討する。

全学的な中期目標
3. 自己点検評価の実質化を図る。

全学的な中期計画
(1) 教員業績データベースの利便性の向上を図るとともに、自己点検評価との連動性を高める。

短期大学部中期計画	2019年度の計画
<ul style="list-style-type: none"> ・認証評価と連動させて、自己点検評価とその活用法の改善・充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認証評価受審に向けて、教員の意識を高める。 ・自己点検評価の活用方法について検討する。

付 記

- 1 第4次中期目標・中期計画（以下「中期計画等」という。）については、第3次中期目標・中期計画と同様に、各学部・短期大学部で検討した目標・計画案を字句の使用等を含めて極力尊重して策定した。これにより、引き続き、中期計画等の実行及び検証に当たって、より実践的なものとする事ができている。
- 2 大学院及び研究所等の関係については、2020年度に本中期計画等を踏まえて策定することとし、高等学校・中学校については、2017年度から2021年度までの第3次中期目標・中期計画が別途進行中のため引き続きこの推進を図ることとした。
このため、学園全体としての管理運営関係については、こうした大学・短期大学部、高等学校・中学校の中期目標・計画を踏まえて、これらを支援・推進するものとして策定した。
- 3 本中期計画等は、引き続き、学園としての全体像のより明確化を図るとともに、各項目の毎年度の点検・評価による修正等を加え、実行していく中で更に充実・発展を図る能動的なものとして位置付ける。